



## 「理事長就任のごあいさつ」

公益財団法人  
軽種馬育成調教センター  
理事長

大平 俊明



BTC ニュースをご覧の皆様、はじめまして。この度、伊藤克己前理事長の退任により、4月1日付にてBTC理事長に就任いたしました大平俊明と申します。

さて、この誌面にてご挨拶をとの依頼がありましたので、簡単な自己紹介と抱負について申し上げたいと思います。

私は昭和28年生まれの60歳です。出身は大分県ですが札幌市在住です。学生時代は土木工学を専攻し、昭和52年に技術職としてJRA（当時はNCK）に入会しました。JRAでは主に競馬場やトレセンの馬場の設計や維持管理について担当し、競走馬の安全確保に努めてきました。その後馬場担当から離れ、札幌競馬場長時代に馬インフルエンザが大流行し、開催が1週中止になりました。馬産地である北海道ではその影響も非常に大きいものだったと記憶しています。そしてJRA監事を経験し、別の視線で競馬やJRAの経営を見ることができたことは大きな財産となっています。

さて今後の抱負ですが、BTCは平成3年に設立され既に20年を経過し、昨年公益性が認められ公益財団法人

となりました。特に事業内容が変わった訳ではありませんが、①軽種馬の育成調教技術の改善・普及、②軽種馬の育成調教技術者の養成、③育成調教施設の運営・管理、が公益事業の柱です。この3本柱を着実に遂行していくことがBTCの使命だと思います。

講演会や「BTCニュース」等を通じて、生産・育成に関する様々な情報を発信していきたいと思います。また、調教施設として平成25年度は14万余頭の利用があり、開設当初とは比較にならないほどの利用となっています。これからも安全で効果的な施設として活用できるように、より一層管理・運営に努力していく所存です。当施設を活用していただき、強くて丈夫な競走馬が競馬場で活躍することを期待しています。さらに、育成技術者の養成については、毎年多くの若者が厳しい訓練に耐え、全国の育成牧場へと巣立っていきます。優秀な人材を育て牧場へ送り出すことが、牧場の活性化さらには地域の活性化を促し、強い馬づくりに貢献できるものと確信しています。

最後になりますが、BTCの調教施設は皆様のための施設です。若馬たちのレベル向上のため多くの利用を期待しています。今後とも利用者の皆様のご理解、ご協力をお願い申し上げご挨拶とさせていただきます。



研修生の騎乗訓練  
グラス馬場（左）、グラス坂路馬場（右）。

